

シンガポールをゲートウェイとした ASEAN特許戦略



ジャイー・リー (Lee Jia Ee)
Global IP Southeast Asia, Malaysia: Director (パートナー)
Global IP Southeast Asia, Singapore: Country Manager
(シニア・パテントエンジニア)
マレーシア弁理士

ASEAN (Association of Southeast Asian Nations) は、国際的な特許ポートフォリオを作りたいと考える企業に有望な機会を提供します。特に、ASEANの中心的なポジションをとるシンガポールが提供する手段は重要です。

ASEANは、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、ベトナム、フィリピン、ブルネイ、ラオス、カンボジア、ミャンマーの10カ国で構成されており、世界経済の中で計り知れないほどの可能性を秘めた地域です。ASEANには、強力に地域統合された大きな市場があり、また開発可能な資源が豊富にあります。ところが、米国や中国のような世界的な経済大国とはみなされてきておらず、国際社会から見落とされ過小評価されがちなようです。実際にはASEANの潜在力は大きく、ダイナミックな地域での成長とパートナーシップの機会を求める投資家、企業、政策立案者はもっと注目するべきでしょう。

ASEANのGDP合計は2022年に3兆6,000億米ドルに達し、COVID19パンデミック前の水準を上回るまでに回復してきました。世界第5位の経済“大国”としての地位を確固たるものとしてきているASEANは、発展途上地域における主要な外国直接投資 (FDI) 先となっています。ASEANの公式ウェブサイトでも報告されているように、この発展には、(i) さまざまな形態での投資の増加、(ii) 製造業の力強い回復、(iii) サプライチェーンの強化やパンデミック後の回復に向けた生産能力拡大に焦点を当てた企業の投資戦略、(iv) 主要な供給国からの多額の投資、(v) デジタル経済を含むインフラ関連活動への投資など、様々な要因が寄与しています。

ASEANの加盟国が国際競争力を高め、産業の幅広い領域において外国投資家にとり魅力的な存在となるにつれ、ASEANは特許出願先として欠かせない存在となってきています。しかし、ASEANの様々な異なる加盟国で特許による保護を受けることは、旧来、容易なことではありませんでした。ASEANを構成する10カ国ではそれぞれ特許に関する保護レベルだけでなく規制や手続きが異なるからです。